

7 月 教 育 委 員 会 会 議 録

日時：令和 8 年 7 月 2 3 日（木） 午後 2 時半

場所：山口県教育庁教育委員会室

（公開）

教 育 長	それでは、ただいまより令和 8 年 7 月の教育委員会会議を開催いたします。 なお、藤田委員は所用のため、欠席されていますので、報告いたします。 最初に本日の署名委員の指名を行います。 伊藤委員、廣兼委員よろしくお願いします。 それでは本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思います。本日の議題のうち、議案第 1 号は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 4 条第 7 項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。
全 委 員	承 認
教 育 長	それでは、議案第 1 号については、非公開で審議することといたします。 議案の審議に入りたいと思います。議案第 2 号について、地域連携教育推進課から説明をお願いします。
地域連携教育推進課長	それでは、議案第 2 号「山口県社会教育委員の委嘱」について御説明します。資料 2 ページを御覧ください。 社会教育委員は、社会教育法により、社会教育に関する計画の立案や調査研究等を通して、教育委員会に社会教育に関する助言を行う役割を担っております。 この度、7 月末で委員の任期が満了することに伴い、新委員の委嘱についてお諮りします。 3 ページの委員名簿（案）を御覧ください。新任 1 0 名と再任 5 名となる 1 5 名の改選案でございます。定数につきましては、条例で「2 0 人とする」となっておりますが、平成 3 0 年度から行財政改革を踏まえ 1 5 名で構成しております。 委員構成につきましては、各社会教育関係団体の代表をはじめ、大学関係者、公募委員など、幅広い分野による構成となっておりますので、本県の社会教育行政に対して、これまでと同様に多角的な視点から御意見をいただけるものと考えております。 続いて、委員の候補者についてです。 今回新たに委嘱する方は、団体推薦では、小学校長会の中谷仁美氏、高等学校長協会の中根弘信氏、子ども会連合会の伊藤紀氏、山口県 P T A 連合会の今本満代氏、公立高等学校 P T A 連合会の松本睦氏、老人クラブ連合会の三吉武氏、保育協会の桂信一氏の 7 名です。 また、指名により新たに委嘱する学識経験者につきましては、教育行政経験者の長谷川裕氏、大学関係者の伊藤一統氏の 2 名です。

	公募委員につきましては、今回7名の応募があり、選考委員会による選考の結果、熊毛千恵氏に委嘱したいと考えております。 熊毛氏は、宇部市の教育振興基本計画の策定に委員として関わるなど、地域に根ざした教育活動や学校・家庭・地域の連携推進に豊富な経験と実績を有している方です。これまで培ってこられた幅広い知見やネットワークを生かし、人権尊重の視点を踏まえた社会教育の推進等について、建設的な御意見がいただけるものと期待しているところです。 説明は以上です。御審議のほど、よろしくお願いいたします。
教 育 長	ただいま地域連携教育推進課から議案第2号について説明がありましたが、意見、質問はありますか。 議案第2号について、承認することとしてよろしいですか。
全 委 員	承 認
教 育 長	議案第2号を承認いたします。 それでは、報告事項に入りたいと思います。 報告事項1について、教育政策課から説明をお願いします。
教育政策課長	令和8年度山口県博物館学芸員の採用選考試験の実施について御報告します。資料1の6ページを御覧ください。この採用選考試験は、歴史に関する調査研究・展示等に当たる専門職員を確保するため実施するもので、令和9年4月1日付で1名程度を採用することとしています。 応募資格は、次の3点すべてに該当する者となります。 1点目に「昭和57年4月2日以降に生まれた45歳未満の者」、2点目に「大学や大学院で、歴史学を学び、大学院の修士課程を修了した者」又は、「同等の研究経験、実務経験を有する者」、3点目に「学芸員の資格を有しているか、採用後3年以内に資格を取得できる者」です。 応募期間は7月31日金曜日から9月17日木曜日までの約1ヶ月半としています。1次選考、2次選考を経て、12月上旬に合格者を発表することとしており、人物重視の選考を行ってまいります。 なお、7ページ以降に掲載した募集案内は、7月30日に報道機関に配布するとともに、県のWEBページ等に掲載します。 併せて、全国の都道府県教育委員会をはじめ、大学や大学院の歴史学科等、関係機関に送付し、広く周知を図ることとしています。 以上、御報告申し上げます。
教 育 長	ただいま教育政策課から報告事項1について説明がありましたが、意見、質問はありますか。 それでは、報告事項1については、以上のとおりとします。 続いて、報告事項2と報告事項3については、関連がありますので教職員課から説明をお願いします。
教 職 員 課 長	お手元の資料17ページをご覧ください。

	7月1日に実施要項を発表しました山口県立学校職員（実習助手・寄宿舍指導員）採用候補者選考試験について御報告いたします。 18ページ以降に実施要項を掲載していますが、ここでは概要を示した17ページで説明させていただきます。 まず、1の表一番右側の「職務の概要」の欄を御覧ください。実習助手は、県立高等学校等において実験や実習等を行う際に、教諭の職務を助けることを主な職務としており、寄宿舍指導員は、特別支援学校の寄宿舍において、児童生徒の日常生活上の世話や生活指導を行います。 左側から2番目の「選考区分」の欄を御覧ください。実習助手については、一般選考と、障害者を対象とした選考を実施し、それぞれ、普通教科、農業1区分、工業1区分、水産1区分、看護を〔志願区分〕としています。 その右の採用見込者数を御覧ください。実習助手については一般選考5人程度、障害者を対象とした選考を1人程度の計6人程度としています。内訳は表のとおりです。また、寄宿舍指導員は1人程度を見込んでいます。 次に、「2 受験資格」についてですが、年齢が来年4月1日時点で、18歳から59歳の方を対象としています。 「3 志願書類等の受付期間」については、8月3日（月）から9月7日（月）としており、「4 試験の期日・場所」については10月11日（日）にYMFg維新セミナーパークで実施します。 「5 試験の内容」は、普通教科の実習助手と寄宿舍指導員については、教養試験・小論文・面接・適性検査を行い、農業・工業・水産・看護の実習助手については、教養試験・専門教科試験・面接・適性検査を行います。 これらの試験結果等をもとに総合的に判断しながら、人物を重視した選考を行い、6の（1）のとおり、11月13日に採用候補者名簿登載予定者を発表することとしています。 続きまして、報告3になりますが、令和9年度山口県立学校職員（船員・技師）採用候補者選考試験の実施について、説明させていただきます。 お手元の資料22ページを御覧ください。 本年度は、大津緑洋高等学校実習船「海友丸」に乗り込む船員及び技師の選考試験を実施することとしております。 実施要項につきましては、去る7月21日に発表するとともに、関係機関に送付し、県教育委員会のウェブページにも掲載したところですが、ここでは概要を示した22ページの資料を用いて説明させていただきます。 選考職種及び採用見込み者数については、船員（機関長）1人、船員（通信長）1人、技師（甲板員）1人、技師（司厨員）1人です。 職務の概要は、山口県、福岡県、長崎県が3県で共同運航している実習船「海友丸」に乗船し、機関長については機関部の総指揮監督業務、通信長については無線連絡業務、甲板員については、甲板や操業業務、司厨員については船内における調理等を行う業務であります。
--	--

	採用方法について、機関長は任期を定めた採用としております。現船員が機関長に必要な海技士機関免許２級を取得できるまでの間を想定しています。 受験資格につきましては、資料にお示しした（１）から（３）のとおりです。 この試験結果等をもとに、人物を重視した選考を行い、１２月１日（火）に採用候補者名簿登載予定者を発表することとしております。 以上、報告させていただきます。
教 育 長	ただいま教職員課から報告事項２と報告事項３について説明がありましたが、意見、質問はありますか。
和 泉 委 員	御説明いただき、ありがとうございます。できるだけ多くの方に応募していただいて優秀な方に来ていただければ、山口県にとっても、大変ありがたいと思います。ぜひ、広報のほうも広く周知され、多くの方が受験できるよう、よろしくお願いいたします。 採用予定者数で前のほうは１名程度になっており、船舶関係のほうは１名となっているのですが、１名程度というのは２名とかもあり得るのか。１名程度と１名の使い分けがあるのか教えていただければ。
教 職 員 課 長	御指摘の通りでございます。程度としておりますのは、応募者の状況に応じてある程度の余裕を持って採ることも可能だということでございます。逆に、船員については、ポストが決まっておりますので、余剰の人員を採ることができませんので明確に１名としております。
和 泉 委 員	ありがとうございます。最近どの分野でも人手不足ということで、教員採用試験もそうですけど、再就職の前倒しという、社会的な流れもありますので、できるだけ多くの方に応募していただけるよう、よろしくお願いいたします。
教 育 長	それでは、報告事項２と報告事項３については、以上のとおりとします。 続いて、報告事項４について高校教育課から説明をお願いします。
高校教育課長	それでは、報告事項４「N-E. X. Tハイスクール」について御説明します。資料は、「資料①」の２９ページとなります。 ６月の教育委員会会議にて、「令和７年度産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業」における文部科学省への申請状況について、御報告をさせていただいたところですが、その採択結果が、先月３０日に文部科学省から公表され、本県においては、類型２「理数系人材育成支援」において県立山口高等学校が採択されました。 山口高校では、今後、基金を活用し、文理探究科設置校や企業・大学等との連携及び研究・実験設備の充実による探究活動の高度化に資する取組を行っていくこととしています。 次に追加公募についてです。文部科学省は、このたび採択に至らなかった計画等の提案を７月下旬から受け付けることとしており、県教

	委では、引き続き、残りの類型についても、採択をめざすこととしています。 なお、今後追加公募に申請を行う類型に係る拠点校については、引き続き非公開としており、採択後、改めて公開することとしています。 最後になりますが、このたびの申請における各都道府県の採択状況をお示ししています。申請のあった171の拠点校のうち採択されたのは69拠点と4割程度になっており、大変厳しい審査であったと感じております。説明は以上です。
教 育 長	ただいま高校教育課から報告事項4について説明がありましたが、意見、質問はありますか。
和 泉 委 員	御説明ありがとうございます。採択校、山口高校の類型2「理数系人材の育成」ということで、19億5000万円が通ったということで大変素晴らしいと思って拝見させていただきました。 ぜひ、理数系の高度な人材の育成に、これをきっかけに、ますます励んでいただければと思います。それと追加公募が7月からあるということで、この表を見ると、山梨県や徳島県は4拠点全て採択されたのかなと思いますが、山口県は今回1件ということで、残りの計画に関しても、文科省から、いろいろアドバイス等もいただいたのではないかと思います。その辺の状況を差し障りない範囲で御紹介いただければと思うのですが、いかがでしょうか。
高校教育課長	このたび、採択に至らなかった部分につきまして、いろいろと文科省からの御指摘もありましたし、我々も自己点検する中で、もう少し具体的な計画が必要であるとか、事業に関しての効果であるとか、どうしても大きな高校改革になりますので教育界だけではなく、産業界ですとか、大学等の専門機関等としっかり連携していく必要があるあたりが、もう少ししっかりと記述できたらよかったかなと思っておりますので、次の再申請に向けまして、そのあたりしっかりと改善して採択を目指して、参りたいと考えております。
和 泉 委 員	全国の状況も把握されていると思いますが、好事例なんかがあればそういうのをどんどん取り入れていただきながら、また素晴らしい提案をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。
木 阪 委 員	説明ありがとうございました。非常に大きなお金が山口高校にということで我々も大変注目もしております。 これは、いつまでというのが決まっているとは思いますが、その間、工事などがあり、生徒さんや先生方にも御負担があるのではないかなと思うのですが、そういったことが極力少なく運営していただきたいと思います。 また、理数系要素が含まれる教育課程の改革ということで、地元企業とか大学とかということもありますが、時を経て、近隣の或いは県内のいろいろな高校にも良い波及効果があればと期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

高校教育課長	ありがとうございます。おっしゃっていただいたように、先生方の負担という部分も当然ありますので、外部機関等としっかり連携をすること、或いは、我々教育委員会もしっかりサポートすることで、先生方の負担をなるべく少なくした状態で良い改革ができるようにと考えております。それから、教育委員会だけではできないことですので、いろいろな外部専門機関との連携をしっかり活かして進めていきたいと考えております。
伊 藤 委 員	御説明ありがとうございました。山口高校は伝統校の強みを生かし、これからの時代に即した高度な人材育成の拠点になることを期待しております。また、採択をされるまでには山口県の教育委員会の皆様の御尽力と御努力の賜物だと思います。最初、報道を見させていただいたときには感動をしました。19億5000万という金額は、普通の金額ではないということで、皆様の御努力だと思っております。採択されたことによりまして、県全体の教育ビジョンを掲げた上で、山口高校の特色やこれからの実績をまとめられ、国の採択基準に合わせて並々ならぬ緻密な計画を作成されたことでしょうか、これから、追加公募に御努力をよろしく願いいたします。
教 育 長	それでは、報告事項4については、以上のとおりとします。 続いて、報告事項5について、県立高校再編整備推進室から説明をお願いします。
県立高校再編整備推進室次長	令和9年度山口県立中学校及び中等教育学校入学者選抜実施要領等についてです。会議資料の30ページを御覧ください。 入学者選抜に関する大綱につきましては、4月の教育委員会会議で御報告し、公表しておりますが、教育委員の皆様のお手元にお配りしております「山口県立中学校及び中等教育学校入学者選抜実施要領」及び「入学者募集要項」並びに「選考検査問題の作成方針」について、本日午前11時に公表しましたので、御報告いたします。 各要領等の概要を30ページの1の枠囲みの中にお示ししております。 まず、実施要領につきましては、2にその要点をまとめておりますが、応募資格、入学定員、日程などを示したものです。 (3)イにありますように、面接は全て個人面接とし、岩国高校附属中学校は12月20日に、下関西高校附属中学校と下関中等教育学校は12月19日に実施することとしています。 次に、募集要項につきましては、志願者が出願する際に必要となる事項をまとめたものであり、31ページ中段の3に記載していますが、各校で開催します「入学者選抜説明会」において、受検願書と併せて保護者等に配布することとしております。 最後に、4の選考検査問題作成方針についてですが、これは「記述式の課題1及び記述式の課題2」の問題作成に当たっての方針を定めたものです。「資料をもとに考えたこと等を問う内容とする。」ことなどとしています。 以上、御報告申し上げます。

教 育 長	ただいま県立高校再編整備推進室から報告事項５について説明が ありましたが、意見、質問はありますか。 それでは、報告事項５については、以上のとおりとします。 協議事項に入りたいと思います。 協議事項１について、県立高校再編整備推進室から説明をお願いし ます。
県立高校再編整備推進室次長	再編整備により設置する学科についてですが、全日制課程の工業に 関する学科の系列について、御協議をお願いいたします。資料の３２ ページを御覧ください。 まず、「１ 概要」についてです。 県立高校の再編整備については、「県立高校再編整備計画 後期実 施計画」に基づき、現在、学校の意見などもお聞きしながら、新高校 の具体的な内容について検討を行っているところです。 本日は、そのうち、再編整備により設置する工業科について、現時 点で整理した系列の方向性を御説明いたします。 「２ 設置する工業科の系列について」を御覧ください。 このたびの公表については、新高校、新学科の設置に向けて、施設 設備の整備に着手する必要があることから、工業科の系列を早期にお 示しするものです。 具体的な教育内容や学科名等については、工業科以外の学科を含 め、学校や地域の御意見等を踏まえて、今後検討していきます。 それでは、各校の工業科の系列について御説明します。 まず、美祢青嶺高校についてです。後期実施計画において美祢青嶺 高校の工業に関する学科については、時代のニーズに応じた工業教育 を推進するために、学科改編を検討することをお示ししていました。 現在、機械科と電気科の２学科を設置していますが、令和１０年度 にこれらを学科改編し、未来エンジニア科（仮称）とし、電気系を取 り入れた機械系の学びを通じて、実践的なものづくりの知識と技術を 身に付ける学科とすることとしています。 その中で、例えば、３Ｄプリンターやコンピュータで制御する旋盤 などの産業機械を活用したデジタルものづくりを実施することを考え ています。 次に、萩高校と萩商工高校の再編統合による設置する新高校につい てです。現在、萩商工高校には、機械・土木科と電気・建築科の２学 科を設置していますが、令和１２年度に萩高校と再編統合し、デジタ ル総合工学科（仮称）を設置することとしています。この学科は、産 業の基盤となるデジタル技術を活用し、工学的な知識と技術を身に付 ける学科とすることとしています。 その中で、例えば、プログラミングによる自動制御や、ドローン を活用した３Ｄデータの作成や分析を実施することを考えています。 次に、新南陽高校と南陽工業高校の再編統合により設置する新高校 についてです。現在、南陽工業高校には、機械システム科・電気科・ 応用化学科の３学科を設置しています。令和１３年度に新南陽高校と 再編統合した後も、これらの系列を継承し、機械系・電気系・化学系 の３つの系列を設置することとしています。

	最後に、宇部工業高校と小野田工業高校の再編統合により設置する新高校についてです。現在、宇部工業高校には機械科、電子機械科、電気科、化学工業科の4学科、小野田工業高校には機械科、電子情報科、化学工業科の3学科を設置しています。 令和13年度に両校を再編統合した後は、両校になかった建築系の系列を加え、機械系・電気系・情報系・化学系・建築系の5系列を設置することとしています。 なお、33ページに、県立高校に設置する工業系の学科の配置をお示ししています。 説明は以上ですが、再編整備により設置する工業に関する学科の系列について、御協議をお願いいたします。
教 育 長	ただいま、県立高校再編整備推進室から協議事項1について、説明がありましたが、意見、質問はありますか。
廣 兼 委 員	説明ありがとうございます。私は萩に住んでいるので、どうしても萩高校と萩商工のほうに目がいってしまうのですが、工業系の学科の所在地図を見ると、土木に関するコースが萩にしかないのかなと思いました。 工業系のことは詳しくわからないのですが、地元では家業を継ぐために土木科に行くという声も時々聞きますので、萩高校でいったら、デジタル総合工学科の中に土木というものが、どういうふうに組み込まれるかをわかりやすく説明・表示していただけたらと思います。小さい頃から俺は家を継ぐっていう子もおりますので、土木関係、建築関係がどう連動していくのか、私には詳しくわからないのですが、機械・土木、電気・建築というものが浸透してきて、この新しいカタカナの学科になると、保護者の方も子供も、これ何をするのだらうというのがあると思うので、そういった声もあるということを知っておいていただけたらと思います。
県立高校再編整備推進室次長	ありがとうございます。まずお話のありました、土木系の学科が萩商工高校にしかないのではというところについて、お答えできればと思います。33ページご覧いただきますと、確かに土木科という名称で出ておりますのは、萩商工だけのように見えるかもしれませんが、例えば、岩国工業高校の都市工学科なども土木関係のものと考えていただければと思います。そういったところがございますので、決して萩商工だけではないということでございます。 それから、仮称ではありますが、デジタル総合工学科、わかりにくいという御指摘であったかと思います。現時点では、先ほど申しましたとおり大きな方向性を示しているものでありますが、今後、今あります機械・土木科と電気・建築科、この4学科の分野の学びをできる限り残していけるような形で検討していきたいと思っております。 ただ申し上げますと、今2学科で置いておりますが、今後、萩地域の中学校卒業見込み者がかなり減ってきてまして、今年3月の萩地域、萩地域と申しますと、萩市・長門市・阿武町のことを指しておりますが、この地域の今年3月の中卒者数が大体540人ぐらいです。これが再編統合を予定しております、令和12年の3月には420人ぐら

	い、１１０人ぐらい減っていきます。さらに、令和２３年３月には、２１０人ぐらいということですからかなり減りが激しいので、なかなか現在の形、規模でもってやってくるのは難しいのではないかとということで、お示ししたようにデジタル総合工学科（仮称）ですけれども、こういった形にしていきたいと考えております。
和 泉 委 員	御説明ありがとうございます。こういった方向性を示していただいて、これからますます、工業高校、最先端の技術も含めて必要になってくる技術も多いのかなと思いますが、少し気になったのが萩商工で建築学科が今あるわけですが、それが萩高校と一緒にするときにはなくなる形で、その建築学科が宇部工業のほうは新設というふうに見えるのですけれども。これは建築学科だといろいろな設備や、そういった関係で萩高校のほうでは立ち上げにくいということで、宇部工業のほうに集約する形で、拠点の工業高校を育成していこうという流れになるのでしょうか。
県立高校再編整備推進室次長	御質問ありがとうございます。繰り返しになりますが、現在、萩商工高校には機械の分野、土木の分野、電気の分野、建築の分野、４分野学ぶことができるような体制をとっているところです。 これについて、今おっしゃったように、建築をなくして宇部工業に持っていくのかというお尋ねだったかと思うのですが、そうではございません。 まず萩商工高校については、現在学べる４分野に共通するデジタル関係、最先端のものは何とか残していきたいと考えております。北浦地域・長北地域で唯一の工業高校ということもありますので、今やっていることは、できる限り継承していきたいと考えているところです。一方で、施設面のお話もありましたが、なかなか新高校に同じ規模で４分野とももっていけるかというところではございませんので、そのあたりは工業教育の質を落とさないような形で、教育内容を検討していきたいと思っています。 一方で、宇部工業高校と小野田工業高校の再編統合で開校する新高校の建築系の学科についてですが、これは宇部市、山陽小野田市の地域性を踏まえまして、地元の産業界のニーズもありますので、拠点としての大規模な工業高校にしたいという思いがありまして、新たに建築系を加えたということでございます。
和 泉 委 員	ありがとうございます。地元の産業界のほうからの要望、御意見等も踏まえながら、より良い形で工業系の学科等が発展されるように、期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
教 育 長	それでは、協議事項１については協議内容のとおりに進めていただきたいと思います。 次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。
教育政策課長	次回の教育委員会会議は、令和８年８月２０日（木）午後２時を予定しております。よろしくお願いいたします。

